

③丸新生児・乳児保育所

1955(S30)~1997(H9)

丸助産所 1934年5月、丸エキは米川稔医師が開業する大町(現・材木座1-2-13)「米川産科医院」に婦長として赴任した。44年1月米川医師が「後を頼む」の言葉を残し出征。9月ニューギニアで自決した。

46年、同じ場所に「丸助産所」の看板を上げた。

やむにやまれず 丸助産所では、生まれた子や幼い兄弟、姉妹の面倒を見るうち自然と託児所のようになっていた。55年、丸は市議会議員を務めながら保母の資格を取り、助産所に「新生児・乳児保育所」(無認可)の看板を掲げた。

制限の無い保育所 核家族が増え、産休明けからすぐ働かなければならない母親が多くなるにつれ、保育所の役割が増えていった。

子どもの年齢や時間にも制限のない保育をめざし、朝から忙しい親に代わって、預かる子どもに手作りのお弁



新生児・乳児保育所で

当を持たせ、幼稚園に送り出した。

当時市立保育園は一か所で、ゼロ歳児保育は無く、夜遅くまで子どもを預かってはくれなかった。また少しでも熱が有ると家に帰された。

もう一人のお母さん 親の帰宅が遅い時は子どもを自宅に泊めたり、夕食を食べさせお風呂に入れ、お母さんが家に連れて帰って寝かせれば良いだけの準備もした。

土、日曜日や夜間も預かる24時間保育をやっていた時もあり、共働きが多い商家などから好評だった。

多い時には30人にもなり、養女の宏美は、栄養士、保母として丸を助けた。

丸保育所で育った子供たちや、親たちは毎年11月に「丸先生を励ます会」を開き、誕生日を祝った。子どもたちの成長を見るのが、丸の大きな喜びであった。

1997年3月末、90歳で保育所を閉所した。



丸先生を励ます会